

## 《研究成果の概要》

自己の身体は知覚される対象であり、知覚された自己身体に関する情報は、行動や姿勢制御に関与すると考えられている。特に、視覚を通して得られる自己身体情報は、環境内での自己の位置づけや姿勢制御との関連が示唆される。一方で、このような自己身体情報が姿勢制御にどのように関与するのかについては、これまで十分に実証的に検討されてきたとはいえない。そこで、2024年8月から2025年8月のサバティカル期間に、米国シンシナティ大学に滞在し、自己身体に関する視覚情報と姿勢制御との関係について、現実環境および仮想環境の双方を視野に入れた基礎的検討に取り組んだ。

主な取り組みは、論文の作成、実験準備、翻訳である。

論文については、サバティカル前に本学で実施した基礎的研究のデータを整理し、英文校閲を経て専門領域の国際誌に投稿した。また、当該研究の知見にもとづき、仮想環境を用いた今後の研究計画について検討を進めることができた。一方で、研究題目とは直接関係しないが、専門とする生態心理学の主要テーマである「ダイナミック・タッチ」に関する解説論文も執筆した。本論文は査読を経てアクセプトされ、2025年7月に国内誌『生態心理学研究』に掲載された。

実験準備については、滞在先のHuman Performance Labの設備を活用し、仮想環境を用いた基礎研究を実施するための環境構築や、関連機材の同期・調整を進めた。実験の実施は次年度以降となるが、国際的な研究展開を視野に入れ、今後もシンシナティ大学との連携を継続する予定である。

翻訳については、生態心理学の理論的基盤をなす代表的著作『The Ecological Approach to Visual Perception』の新訳版に分担者として取り組んだ。本書は2026年に刊行予定である。

以上のように、論文執筆・設備を活用した実験準備・重要文献の翻訳に取り組み、サバティカル期間を通じて研究の進展に結び付く成果を得ることができた。